

CFD/CAE Intelligent Postprocessor



クライアントサーバモジュール / FieldView Parallel 自動実行セットアップ手順・起動方法

2010年 2月

株式会社 **ヴァイナス**

URL <http://www.vinas.com> E-mail sales@vinas.com
(本 社) Tel 06-6440-8111(代) Fax 06-6440-8112
(東京営業所) Tel 03-5791-2643 Fax 03-5791-2649

SSH通信ツールのセットアップ

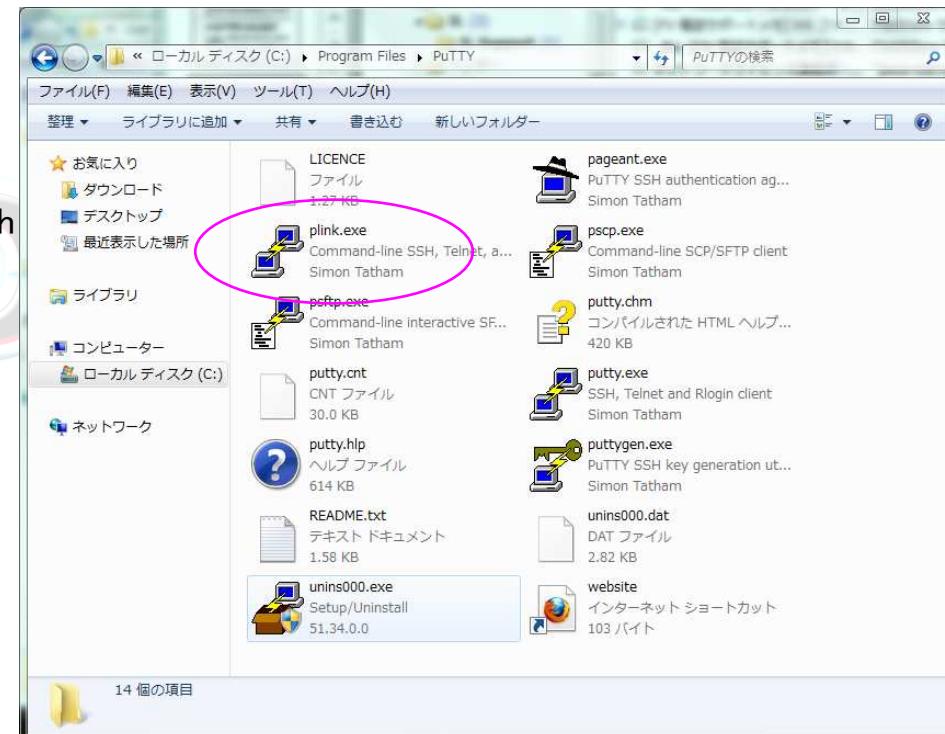
1. Webより、Putty(パティ)というターミナルエミュレータツールをダウンロードし、Windows (FieldViewクライアント)マシンへインストールする。

URL ;

<http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/download.html>

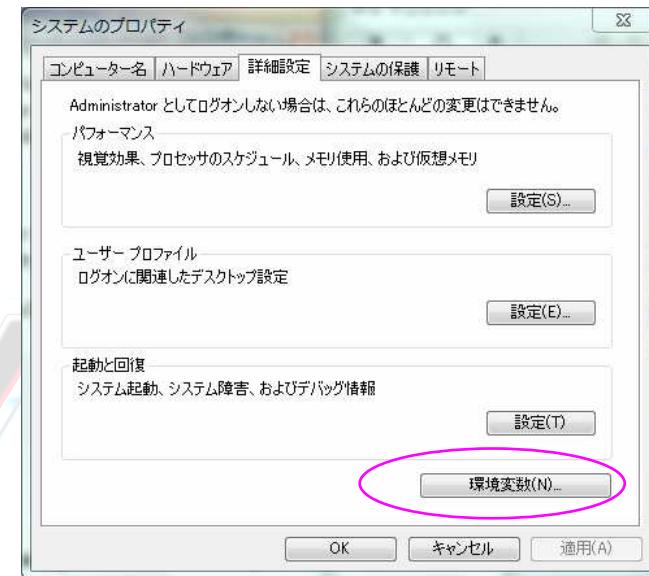
2. インストール先(通常の場合) ;
C:\Program Files\PutTY
内に “plink.exe” というモジュールがあるのを確認する。
3. 2で “plink.exe” が存在しない場合、
1. URLよりモジュールをダウンロードします。

“plink.exe”とは、Linux等のコマンド”ssh”に該当するモジュール



クライアントサーバ/FieldView Parallel 自動実行の設定②FIELDVIEW

- マイコンピュータ → 右クリック プロパティ にて、システムのプロパティパネルを開く。



- 詳細設定タブ内の環境変数を選択する。

- FieldViewのインストールディレクトリ
“C:\Program Files\Intelligent Light\FVWIN12.2.1\bin”
を環境変数PATHに追加する

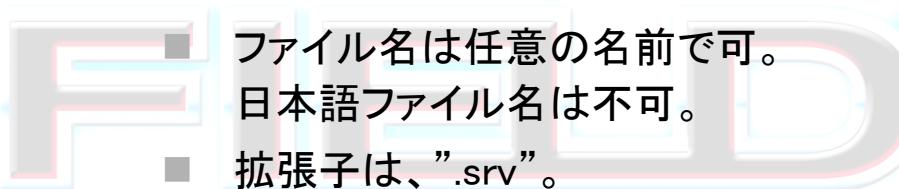
例)

変数 : PATH

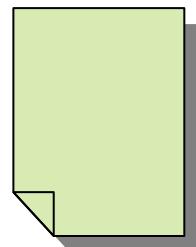
値 : ***;“C:\Program Files\Intelligent Light\FVWIN12.2.1\bin”



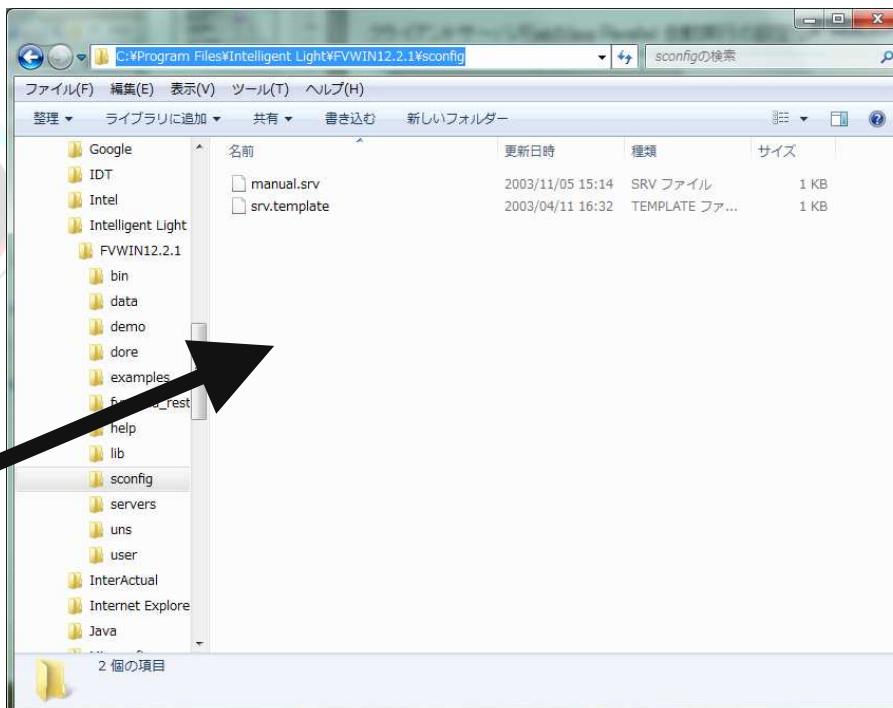
- FieldViewのインストールディレクトリ
“C:\Program Files\Intelligent Light\FVWIN12.2.1\sconfig”
へサーバ設定ファイルを作成する。



- ファイル名は任意の名前で可。
日本語ファイル名は不可。
■ 拡張子は、”.srv”。



server_auto.srv

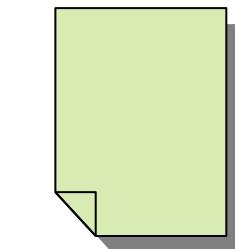


クライアントサーバ/FieldView Parallel 自動実行の設定④FIELDVIEW

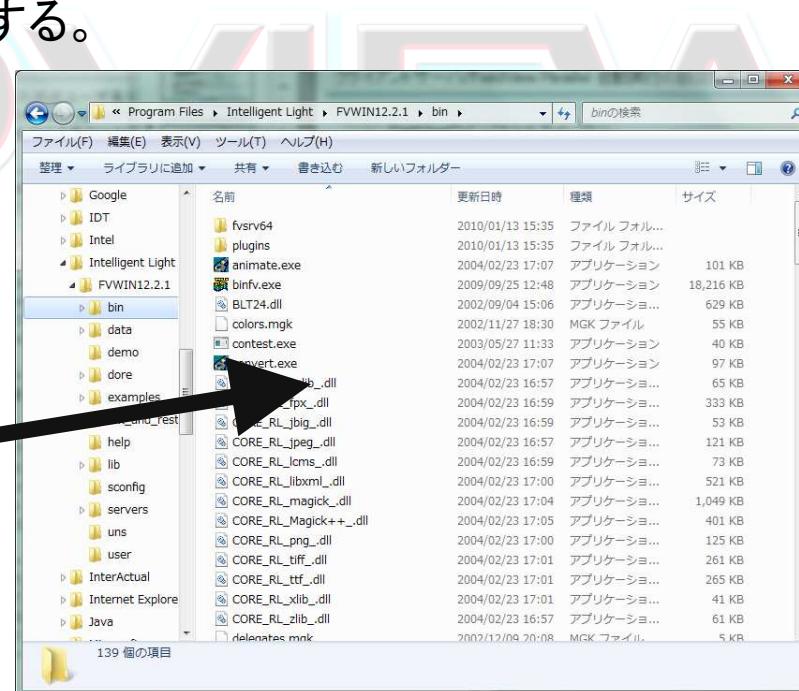
```
server_auto.srv
AutoStart: true
ServerName: server1
UserName: foo
RemoteShell: ssh_autostart.bat
StartDirectory: /home/foo/fv_work/
```

- AutoStart
サーバのスタートアップ方法。
自動スタートアップの場合、true。
手動スタートアップの場合、false。
- ServerName
ホスト名またはIPアドレスを使ってサーバマシンを指定します。
- UserName
サーバマシンにログインするためのユーザ名です。
- RemoteShell
自動サーバスタートアップに使用するリモートShellの名前。rsh, sshなど。
Windowsから自動実行する場合、rshやsshは通常サポートされていないため、バッチファイルを作成し、そのファイル名を指定。
- StartDirectory
FieldViewのファイル選択画面が開くときのサーバ側のディレクトリパス名です。

8. FieldViewのインストールディレクトリ
“C:\Program Files\Intelligent Light\FVWIN12.2.1\bin”
または、Pathの設定が行われている
ディレクトリへバッチファイルを作成する。
 - ファイル名は任意の名前で可。
日本語ファイル名は不可。
 - 拡張子は、”.bat”。



ssh_autostart.bat



クライアントサーバ/FieldView Parallel 自動実行の設定⑥FIELDVIEW

ssh_autostart.bat

```
@echo off
echo.
echo FieldView Client Server OR FieldView Parallel
echo Server Module Auto Start batch command for Windows
echo.

set FV_HOME_SERVER=/home/fv/fv12.2.1/fv/
set PATH=%PATH%;"C:\Program Files\PuTTY"
set para_proc=8
set passwd=tigermask

echo **** 起動モードメニュー ****
echo [1] : クライアントサーバモード
echo [2] : FieldView Parallel 共有メモリモード
echo [3] : FieldView Parallel クラスタリングモード
echo ****
set /p NUM="起動モードを選択してください>"

if "%NUM%"=="1" goto fvcs
if "%NUM%"=="2" goto fvsh
if "%NUM%"=="3" goto fvp4
```

```
:fvcs
set FV_SRV=%FV_HOME_SERVER%bin/fvsrv
echo on
plink.exe -l %3 -pw %passwd% %3@%1 %FV_SRV% %6
goto end

:fvsh
set FV_SRV=%FV_HOME_SERVER%bin/fvsrv_shmem
set
FV_MPIRUN=%FV_HOME_SERVER%bin/mpich/ch_shmem/bin/mpirun
echo on
plink.exe -l %3 -pw %passwd% %3@%1 %FV_MPIRUN% -
np %para_proc% %FV_SRV% %6
goto end

:fvp4
set FV_SRV=%FV_HOME_SERVER%bin/fvsrv_p4
set
FV_MPIRUN=%FV_HOME_SERVER%bin/mpich/ch_p4/bin/mpirun
echo on
plink.exe -l %3 -pw %passwd% %3@%1
P4_RSHCOMMAND=/usr/bin/ssh %FV_MPIRUN% -
np %para_proc% %FV_SRV% %6
goto end

:end
```

クライアントサーバ/FieldView Parallel 自動実行の設定⑦ **FIELDVIEW**

ssh_autostart.bat

```
@echo off
echo.
echo FieldView Client Server OR FieldView Parallel
echo Server Module Auto Start batch command for Windows
echo.

set FV_HOME_SERVER=/usr/fv/fv12.2.1/fv/
set PATH=%PATH%;"C:\Program Files\PuTTY"
set para_proc=8
set passwd=tigermask

echo **** 起動モードメニュー ****
echo [1] : クライアントサーバモード
echo [2] : FieldView Parallel 共有メモリモード
echo [3] : FieldView Parallel クラスタリングモード
echo ****
set /p NUM="起動したいアプリケーションを選択してください >"

if "%NUM%"=="1" goto fvcs
if "%NUM%"=="2" goto fvsh
if "%NUM%"=="3" goto fvp4
```

■ 左赤線内のみ変更

1. FV_HOME_SERVER

サーバ側のFieldViewインストールパスを
フルパスにて記入。

2. PATH

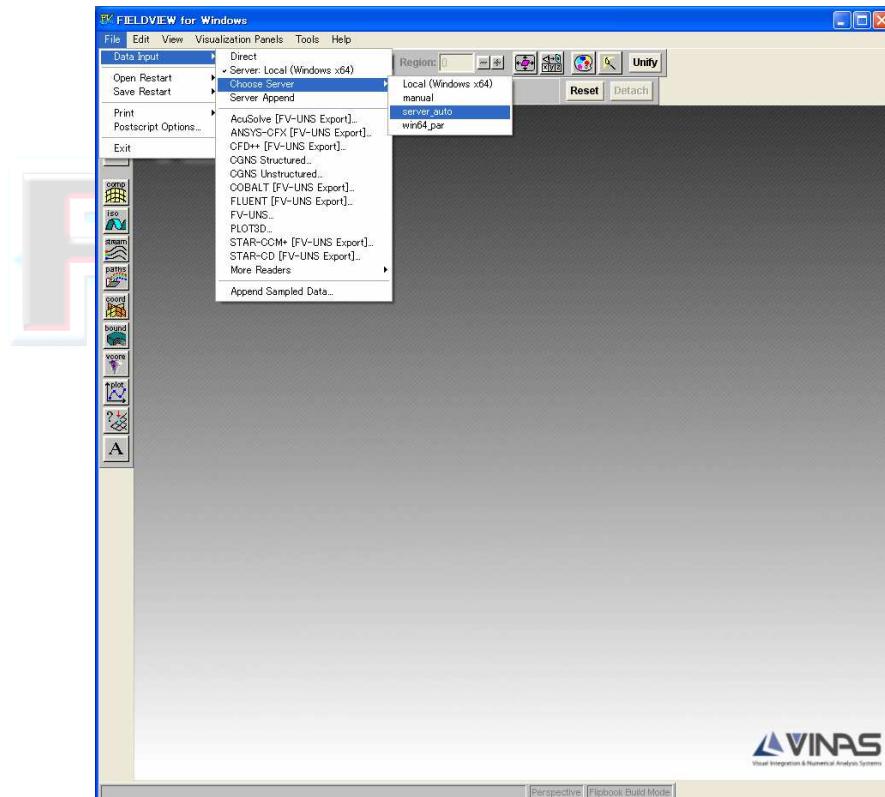
“%PATH%”以降のPuTTY(plink.exe)の
インストールパスを記入。
標準であれば、変更の必要なし。

3. para_proc

並列処理時の起動プロセス数を指定。
クライアントサーバであれば無視して可。

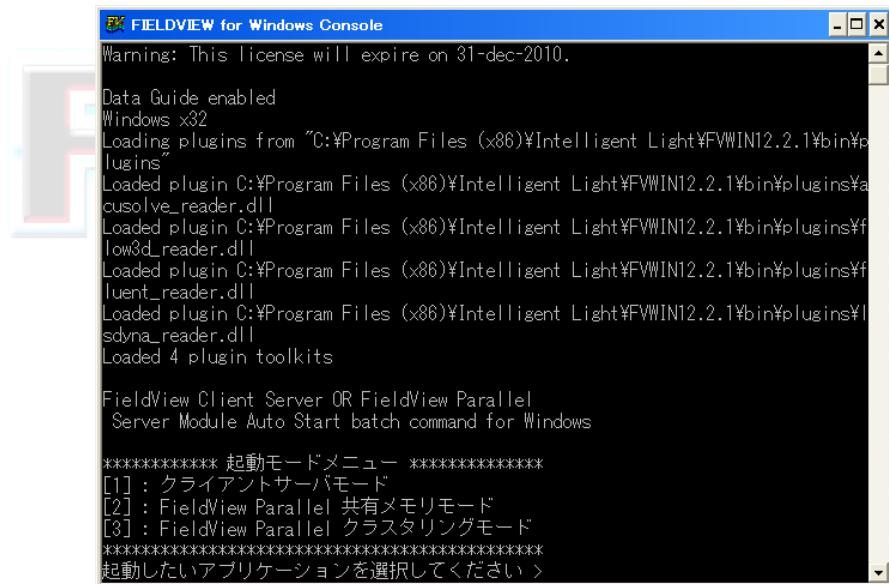
4. passwd

サーバマシンへログインする際のパス
ワードを記入。



FieldViewの起動

- FieldViewを起動
- File → Data Input → Choose Server → server_auto の手順にて選択。
- File → Data Input にて、上から2つ目に「Server: server_auto」となっていることを確認。
- File → Data Input → FV-UNS の手順にて選択。



5. タスクバーより、「FIELDVIEW for Windows Console」という名前のコンソールを選択。

6. Console上に入力を求められるので、1~3の数字を起動させたいモードにあわせ入力後、[Enter]を入力。

7. FieldViewにてモデル読み込み完了。
8. FieldViewにて、断面作成し、可視化を実施。



VIEW